

### 創世記第 1 章新共同訳 1987

1 初めに、神は天地を創造された。地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。

「光あれ。」

こうして、光があった。神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。

神は言われた。

「水の中に大空あれ。水と水を分けよ。」

神は大空を造り、大空の下と大空の上に水を分けさせられた。そのようになった。神は大空を天と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第二の日である。

神は言われた。

「天の下の水は一つ所に集まれ。乾いた所が現れよ。」

そのようになった。神は乾いた所を地と呼び、水の集まった所を海と呼ばれた。神はこれを見て、良しとされた。神は言われた。

「地は草を芽生えさせよ。種を持つ草と、それぞれの種を持つ実をつける果樹を芽生えさせよ。」

### 創世記第 1 章フランス語版 2015

1 神による天と地の創造の始まり。大地は荒涼として空虚 vide であり、闇が深い淵の表面を覆っていて、神の吐息が水溜り (複数) の表面を駆け巡っていた。

そこで神は言った、「光あれ!」。すると光があった。神はこの光が良い出来なのを見た。神は、闇と光を分けた。神は光を「昼」と名付け、闇を「夜」と名付けた。夜になった。朝になった。第一日である。

神は言った、「水溜りの真ん中に天空を、そして水 (の集まり) を二つに分けたい」。神は天空を造り、低い方にある水と高い方にある水に分けた。そのようにして、神は天空を「空」と名付けた。夜になった。朝になった。第二日である。

神は言った、「空より低い方の水はひとところに集まれ。そして、大陸が現れよ」。そのように成った。神は大陸を「大地」と名付けた。水の集まりの方は「海」と名付けた。神はこの仕事を上出来だと見た。

神は言った、「大地はその種子を実らせる草やそれぞれの種類によって同じ種類の果実を大地にもたらず果樹の緑に覆われよ。」

### 創世記第 1 章英語版 1991

1 その始まり、神 God は天と地を創造した。2 そして、地は形 form なく、空虚 void だった。深い海 the deep の面 face は暗闇だった。そして神の霊 the spirit が水の面を動いていた。3 そして神は言った、光よあれ、すると光があった。4 そして神は光を見た、良い出来栄えだった。それから、神は光を闇から離れた。5 そして、神は光を「昼」と名付けた。そして闇を「夜」と名付けた。そうして夜と朝があって、第一日が終わった。6 そして、神は言った、天空を水 (複数) のなかにあらしめよ、それをもって水を分かたせよ。7 そして神は天空を造り、天空の下の水と上の水とに分けさせた。そのようになった。8 そして神は天空を天 Heaven と名付けた。夜と朝があって第二日が終わった。9 そして神は言った、天の下の水を一つ場所にまとめて置け。そして乾いた陸 land が現われるようになれ。そしてそのようになった。10 そして神はこの乾いた土地を大地 Earth と名付けた。水は一つに集め海と名付けた。それを見て神は上出来と思った。

古事記 冒頭部分

あめつち ひら たかあまがはら  
天地初めて発けしとき 高天原に成れる

あめのみなかぬしのかみ  
神の名 天之御中主神

たかみむすひのかみ  
次に 高御産巢日神

かみむすひのかみ  
次に 神産巢日神

み ひとりがみ なりまして  
この三柱の神は並な独神と成坐而

身を隠す

わか うきあぶら くらげ  
次に 国稚くして浮脂のごとくして、海月

あしかび あが  
なす漂へるとき、葦牙のごとく萌え騰る物

よ  
に困りて成れる神の名

うましあしかびひこぢのかみ  
宇摩志阿斯訶備比古遲神

あまのとこたちのかみ  
次に 天之常立神

またひとりがみ なりまして  
この二柱の神も亦独神と成坐而 身を隠す

くだり いつはしら ことあま  
上の件の五柱の神は別天つ神

くにのとこたちのかみ  
次に成れる神の名は 国之常立神

とよくもののかみ  
次に 豊雲野神

またひとりがみ なりまして  
この二柱の神も亦独神と成坐而 身を隠す

うひぢにのかみ  
次に成れる神の名は 宇比地邇神

いもすひぢにのかみ  
次に 妹須比智邇神

つぐいのかみ  
次に 角杙神

いもいくぐひのかみ  
次に 妹活杙神

おほとのぢのかみ  
次に 意富斗能地神

いもおほとのべのかみ  
次に 妹大斗乃弁神

おもだるのかみ  
次に 於母陀流神

いもあやかしこねのかみ  
次に 妹阿夜訶志古泥神

いぎなきのかみ  
次に 伊邪那岐神

いもいぎなみのかみ  
次に 妹伊邪那美神

上の件の国之常立神以下伊邪那美神

よりきま あはせ かみよ よ  
以前を并て神世七代と称ぶ

あまつかみもろもろのみこともつ  
是に天つ神 諸命 以て 伊邪那岐命と伊

ふたはしら ただ おさ  
邪那美命二柱の神に この漂へる国を修

つく かた みことり あま ぬぼこ  
め理り固め成せと 詔りて 天の沼矛を

たま ことよせ たま ゆえ あま  
賜ひて言依せ賜ひし也 故に二柱の神 天

うきはし さ お  
の浮橋に立ちて その沼矛を指し下ろして

もつ えが しお か なし  
以て描けば 塩こをろこをろに描き鳴て

引き上げしとき その矛末より垂たり落ち

つもり しま  
たる塩の累積て成れる嶋 是れ

おのごろじま  
淤能基呂嶋

あまくだりまして あま みはしら みたて  
その嶋に天降坐而 天の御柱を見立

やひろ でん みたて  
八尋の殿を見立り

...